

各関係機関長 殿  
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

平成29年度農作物病虫害発生予察情報について

平成29年度農作物病虫害発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成29年度農作物病虫害発生予察特殊報第1号

平成29年6月5日  
徳島県

1 病虫害名及び病原名  
ホモノハダニ *Petrobia latens* (Müller)

2 発生作物  
ラッキョウ

3 発生地域  
鳴門市



図1 ホモノハダニ発生圃場（手前）と未発生圃場（奥）

4 発生の経過

平成29年5月に鳴門市鳴門町で栽培されている

ラッキョウにおいて、赤茶色のダニが多発生し、吸汁害により葉が白化、もしくは黄変症状を示す株が出現した（図1）。これまでにラッキョウにおいて、本種の多発生とこのような被害症状は確認されていなかったことから、鳴門藍住農業支援センターで調査したところ、鳴門市鳴門町の31圃場のうち、21圃場で本種の発生がみられた。また、本種虫体を茨城大学 後藤哲雄教授に同定依頼した結果、ホモノハダニと判明した。

ホモノハダニは、世界各地に分布しており、国内でも麦類、イネ科牧草、豆類、イチゴ、ネギでの発生が報告されている。本県では平成23年に徳島県板野郡板野町や吉野川市で栽培されたトンネル栽培ニンジンでの発生を確認している。

5 被害の特徴 等

1)被害症状

ラッキョウ葉を吸汁し、食害痕はかすり状の白斑となり、多発すると葉全体が白化、もしくは黄変し、生育抑制や枯死を引き起こす（図2）。

2)形態

一見カンザワハダニ、赤色型ナミハダニに似ているが、第1脚が突出して長いのが特徴である（図3）。

雌成虫は体長約0.7mmで、濃褐色ないし濃赤色。背面から見ると楕円形で、側面から見ると背が盛り上がっている。胴背毛は短く、大部分は隣の胴背毛の起点には達しない。胴は細長く、第1脚は胴部と同長かやや長い。

### 3) 生態

雄成虫は存在しない。幼〜成虫がダイズ、イチゴ、ネギ等の作物に寄生するが、重大な被害をもたらすことは少ない。北海道では年間5世代発生するが、第2世代以降は休眠卵を産むことが多くなるので、第3世代以降の個体数は極端に少ない。冷涼時でも動きが活発で、すばやく動き回って地表面と植物体を行き来していることが多い。

### 4) 寄主植物

国内では麦類、イネ科牧草、豆類、イチゴ、ネギ、ニンジンでの発生が報告されている。

### 6 防除上の注意等

兼田ら(2012)が実施した室内での薬剤感受性試験では、メソミル水和剤(商品名:ランネートDF)の効果が高い(但し、ラッキョウで農薬登録された対象病害虫はネダニ類である。)



図2 ラッキョウ葉に発生したホモノハダニと被害症状



図3 ホモノハダニ雌成虫